

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、百貨店・スーパー販売やコンビニエンスストア販売が持ち直しているほか、宿泊などサービス消費でも持ち直しの動きが続いていることから、緩やかに持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスや汎用・生産用・業務用機械が高水準で推移していることから、持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
生産活動	持ち直している	持ち直している	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	持ち直している	
設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	
住宅建設	持ち直しつつある	持ち直しつつある	

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、外出機会の増加に伴い衣料品が堅調なほか、催事効果により来店客数が増加したことから、持ち直している。コンビニエンスストア販売は、弁当や冷凍食品が堅調であり、持ち直している。ドラッグストア販売は、食料品や衛生用品を中心に堅調である。ホームセンター販売は、アウトドア関連商品が堅調であるものの、横ばいとなっている。家電大型専門店販売は、節電効果の高い製品への買い替え需要が続いているものの、横ばいとなっている。乗用車の新車販売は、供給面での制約が続いているものの、持ち直しの動きがみられる。宿泊は、助成事業の効果もあり、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 新規イベントの開催や催事期間の延長の効果もあって来店客数が増加。外出機会が増えたことや気温が下がったこともあり、婦人服を中心に秋物衣料も好調。(百貨店・スーパー)
- 値上げの影響により、割安感のあるプライベートブランド商品の売上が大幅に伸びている。(百貨店・スーパー)
- コロナ禍の巣ごもり需要を契機として、弁当や冷凍食品などの中食関連は引き続き堅調。(コンビニエンスストア)
- 9月は全体として好調であったが、台風に伴う臨時休業の影響により売上が当初見込みを下回った。(大型商業施設)
- 節電効果の高い製品への買い替え需要は引き続き堅調であるものの、物価上昇の影響による買い控えの動きがみられる。(家電大型専門店)
- 感染症の拡大によるサプライチェーンの混乱が落ち着いてきたことで、積み上がっている新車の受注残が例年の水準に戻りつつある。(自動車業界団体)
- 全国旅行支援の開始以降、宿泊の予約が増えており、10月の稼働率は9割近くに達する見込み。外国人客の利用も増えつつある。(宿泊施設)
- 9月半ば過ぎから繁華街の人出は回復しており、10月に入ってからはいまだかつて足が遠のいていた年配客もみられるようになったが、宴会需要はまだ戻っておらず、少人数での利用が多い。(飲食業界団体)

■ 生産活動 「持ち直している」

食料品等は、横ばいの状況にある。電子部品・デバイスは、一部に弱い動きがみられるものの、高水準で推移している。化学・石油製品は、自動車向け製品が回復傾向にあり、堅調である。汎用・生産用・業務用機械は、供給制約の影響がみられるものの、半導体製造装置を中心に高水準で推移している。輸送機械は、供給制約の影響が緩和されつつあり、持ち直している。

- 内食向けは、家庭内需要の定着から需要は大きく落ち込むことなく堅調に推移している。外食向けは、感染症拡大期にあっても行動制限がなかったため、外食機会が増え注文が増えている。(食料品等)
- 需要は引き続き旺盛であり、生産はフル稼働で取引先から増産を求められている状況。この傾向は今後も続く見込みで、半導体需要の減速感を感じられない。(電子部品・デバイス)
- 欧米の車載品需要が回復傾向にあり、高い生産水準を維持している。(化学・石油製品)
- EV関連や半導体関連の引き合いが強好調である。生産に必要な電子部品や半導体が入手できないことがあり、調達に苦労している。(汎用・生産用・業務用機械)
- 7月以降は中国のロックダウンの影響が解消され、調達が懸念されていた部品の点数も減っている。納入遅れが続く部品もあるが、生産車種の振り替えで対応しており、9月以降はフル稼働が続いている。(輸送機械)

■ 雇用情勢 「持ち直している」

有効求人倍率は、緩やかに上昇している。新規求人数は、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業、卸売業・小売業を中心に前年を上回って推移している。

- 医療・福祉や建設業など慢性的な人手不足の業種からの求人に加え、感染症の影響を受けていた宿泊業・飲食サービス業の求人回復により、有効求人数は増加している。(公的機関)

■ 設備投資 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7～9月期

- 製造業では「はん用機械器具製造業」などで減少見込み、「情報通信機械器具製造業」などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では「生活関連サービス業」などで減少見込み、「小売業」などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。

- 生産能力増強のための新規設備投資。(情報通信機械器具製造業)
- 新規出店するための建物建設や業務効率化に向けたシステム関係の更新。(小売業)

■ 企業収益 「4年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7～9月期

- 製造業では、「食料品製造業」などで減益見込み、「生産用機械器具製造業」などで増益見込みとなっており、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「小売業」などで増益見込み、「農林水産業」などで減益見込みとなっており、全体では減益見込みとなっている。

■ 住宅建設 「持ち直しつつある」

- 新設住宅着工戸数(4年6～8月)をみると、持家及び貸家は前年を下回っているものの、分譲は前年を上回っている。

【その他の項目】

■ 企業の景況感 「現状判断は『下降』超」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7～9月期

- 4年7～9月期の景況判断BSIをみると、全産業では「下降」超となっている。先行き(全産業)をみると、4年10～12月期は「上昇」超の見通しとなっている。

■ 公共事業

- 公共工事請負金額(4年4～9月累計)をみると、前年度を下回っている。

■ 倒産

- 企業倒産(4年7～9月期)は、件数は前年を上回り、負債金額は前年を下回っている。

3. 各県の総括判断

	前回(4年7月判断)	今回(4年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
熊本県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、百貨店・スーパー販売やコンビニエンスストア販売が持ち直しているほか、宿泊などサービス消費でも持ち直しの動きが続いていることから、緩やかに持ち直している。生産活動は、汎用・生産用機械や電子部品・デバイスが高水準で推移していることから、回復している。雇用情勢は、持ち直している。
大分県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、外出機会が増え、百貨店・スーパー販売や宿泊・観光関連などにおいて客数が増加するなど、緩やかに持ち直している。生産活動は、輸送機械において供給制約の影響が和らぐなど、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
宮崎県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、外出機会の増加に伴い百貨店・スーパーやレジャー・観光施設などで客足に戻りがみられることから緩やかに持ち直している。生産活動は、その他工業などに弱さがみられるものの、食料品工業などを中心に緩やかに持ち直しつつあるほか、雇用情勢は、宿泊業・飲食サービス業を含む幅広い業種において緩やかに持ち直している。
鹿児島県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、百貨店・スーパー販売や宿泊・観光関連において引き続き回復基調にあることから、緩やかに持ち直している。生産活動は、食料品工業などに弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。